

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600620	事業の開始年月日	平成26年8月1日
		指定年月日	平成26年8月1日
法人名	株式会社 メディカルライフケア		
事業所名	グループホーム幸せふくろう並木		
所在地	(〒252-0228) 相模原市中央区並木1-4-6		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年2月16日	評価結果 市町村受理日	令和3年10月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍なので、外出は出来ないが、毎日玄関先のベンチで外気浴を行っています。毎日の利用者様の食を大切に、美味しい物を召し上がっていただくために、職員の手作り料理をお出しし、行事の時は利用者様のリクエストで、食べたいものをお出ししています。保育園が併設されているので、園児と合同イベントをしたり、プランターで花を植えたりして楽しんでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年3月11日	評価機関 評価決定日	令和3年5月30日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 <p>この事業所はJR横浜線淵野辺駅とJR相模線上溝駅からバスで5分のバス停「千代田」か「栄公園前」から徒歩4分のバス通りを少し入った住宅地にある。周りには公園やコンビニエンスストア、スーパーマーケットがあり、生活には便利なところである。建物は木造2階建てで1階に保育園が併設されている。グループホームは1階に1ユニット、2階に1ユニットと事務室や相談室があり、利用者は階段とエレベーターを使い互いのユニットを行き来している。</p> 【食事を楽しむ支援】 <p>日々の食事が楽しめるように利用者の希望を反映させた献立を作り食材を購入して職員が調理をしている。利用者は下ごしらえの皮むきなど、できる事を手伝い調理の音やにおいに触れながら生活をしている。利用者の食べたい物を聞き、鰻やお寿司は鮮魚スーパーに発注して新鮮で美味しいものを楽しんでいる。お正月のおせち料理や、雛まつりなどの行事食やクリスマスのケーキは、おやつレクとして皆で作るメリハリのある食の楽しみを工夫している。</p> 【医療連携と終末期対応】 <p>かかりつけ医が月2回往診をしている。看護師は毎週来て利用者の健康管理をしている。契約時に「重度化及び看取りに関する指針」を説明し「終末期および急変時の延命医療に関する同意書」を取り交わしている。重度化が進んだ時には医師と家族と管理者で話し合い、再度意向の確認をして、希望があれば看取りにも対応している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム幸せふくろう並木
ユニット名	幸せの森

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム幸せふくろう並木
ユニット名	幸せの泉

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	<input type="radio"/> 4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域との連携」を推進し地域社会に貢献とうたっているため、コロナ禍で運営推進会議も自粛している。	理念は法人共通の理念で「絆・愛・感動」を感じられるサービスの提供を掲げており、行動指針を決めている。理念は事務所に掲示し、会議の時には唱和している。職員は理念に基づき、利用者が自分の家族だったらどうかと思って日々の介護を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩のときに挨拶をしたり、自治会のお祭りに参加したりしていたが、コロナで自粛しているため、交流は少ない。	並木1丁目自治会の会員になっている。地域の行事などの情報は回覧板から把握している。以前は地域の祭りには管理者が手伝いに行き、地域の方々とも顔見知りの関係になっている。本年度は新型コロナ禍で地域行事も中止になり参加できなかった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方が、入居の申し込みに来て頂いた際に、施設に対する感想を聞かされた際に、少し活かされていると感じた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は、コロナのため、運営推進会議を自粛している。	運営推進会議の委員は家族、利用者、自治会長、地域包括支援センター職員、管理者と事業所職員で2か月ごとに開催していた。昨年1月の開催後は新型コロナ感染防止のため開催していない。昨年1月の運営推進会議では地域包括支援センターの職員から地域防災訓練への参加を勧められ、参加を予定したが新型コロナ感染防止のため中止となった。	運営推進会議の開催については新型コロナ感染防止の対応として、書面による活動状況等の報告・評価等が可能になっています。事業所として取り組める方法を検討し、報告書の作成・提出を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあったら、報告を怠ることなく、指導を仰いでいる。	生活支援課の職員とは生活保護受給者の問い合わせの連絡を双方で行っている。事故報告は本庁の福祉基盤課に持参している。本年度は行政主催の感染症の研修に申し込んだが、中止となり参加できなかった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を実施し、職員が正しく理解できるように取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3か月ごとに開催している。身体拘束マニュアルがあり、高齢者虐待や身体拘束防止の職員研修に取り組んでいる。職員は自己点検シートを記入し、身体拘束が何かを学習している。玄関や各ユニットの出入り口は開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者が事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち、個々の必要性と関係性を話し合い、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネが親切で丁寧な説明を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年アンケートを作成し、ご意見を伺い改善に努力している。	毎年家族アンケートを法人で行っている。アンケートの配布や回収は法人が行い、事業所ごとに改善点や今後の取り組みをまとめて法人から家族にアンケート結果報告をしている。家族から、職員の名前が判るように名札を付けてほしいとの意見があり、名札を付けるようにした。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、上層部に伝え、反映させている。	事業所内の会議は全体会議を年1回開催。ユニット会議は月1回開催し、その中でカンファレンスも行っている。会議では、職員が意見や提案を出し合っている。研修は法人として月2～3回あり、今はオンライン研修をしている。日々の申し送りは申し送りノートに記入して情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自己評価を行い、管理者と面談をしているが、給与などに反映されている実感がない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に、1～2回の法定研修と、月に1回の介護道場という学びの場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナのため、自粛している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネのアセスメントをもとに、日ごろの会話を心かけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと、要望等はサービス開始の段階で詳しく聞き、出来るだけ、家族の要望に応えられるよう、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にあるように「家族の絆・家族の愛・家族の感動」をもとに家族介護の実践に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの為、オンライン面会を取り入れ、面会の実施をしている。できない家族には、電話で、様子を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやり取り等のお手伝いをしている。	新型コロナ感染防止のため面会ができない状況があったが、今はビデオ電話を取り入れている。年賀状や手紙などの返事はポストへの投函をして、馴染みの関係継続を支援している。入居前からの習慣で新聞を毎日読む方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に、表情等含め、様子を見ながら、細かい配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に、家族に、困ったことや、相談したいことがあった場合、すぐに連絡してもらえよう話し、相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	都度、希望に添える様に、努めている。	アセスメントは6か月ごとに作成して意向の確認をしている。日々の会話の中で思いを聞く機会があり、記録して職員間で情報を共有し、介護計画に反映するようにしている。言葉での確認ができない方は、表情や様子から把握して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表や、会話の中から得た、情報を職員同士で共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議で、どのような過ごし方が一番良いか話し合い、実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議での話し合いや、日々の申し送り、記録で計画作成者に伝えている。	介護計画は長期目標を1年、短期目標を6か月ごとに見直している。状態変化があれば随時見直している。モニタリングは毎月行い評価しており、医師や看護師からの意見も介護計画に反映している。終末期を迎えたら看取り介護計画を作成して対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、ユニット会議でも話し合いを持ち、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナで自粛している為、地域資源の活用が以前より、減っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関の医師が、かかりつけ医として月2回往診をしている。精神科の受診が必要な方が1人いて、その方は精神科の医師が内科も合わせて月2回往診している。皮膚科や整形外科などの受診は家族に連絡して家族か職員が付き添い受診している。歯科医は希望する方の定期健診や口腔ケア、歯科治療の必要に応じて訪問している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	クリニックからの朝晩の状態確認で、異常があった時には、報告し、訪問看護師には、日常の細かいところまで報告し、適切な受診や支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連絡をとり、できるだけ早期に体位交換できるように努めている。病院関係者との関係づくりも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期の在り方について、入居の時から十分に説明を行い、方針を共有し、地域の関連者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化及び看取りに関する指針」を説明し、終末期や急変時の対応について同意書を交わしている。医師から終末期との診断が出た時点で、医師からの説明と今後の対応への意向再確認をしている。今年度は3人の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法定研修や介護道場で学ぶと共に、自己啓発を促している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での避難訓練を行っている。運営推進会議で、話し合っているが、地域との協力体制はまだ、築けていない。	本年度の避難訓練は、昨年9月に日中火災を想定して行った。昨年度の目標達成計画に夜間想定訓練を計画していたが実施できなかった。備蓄は職員の数も含めた水と食品を3日分用意して、管理表を作り入れ替えている。カセットコンロや懐中電灯などの備品も準備している。	いつ起こるかわからない災害への対策のため訓練は不可欠です。地震や夜間想定などの訓練を計画し、取り組まれることを期待します。また、家具や家電の転倒や飛び出し防止への対策も期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。	個人情報を含む書類は事務所の鍵のかかるキャビネットに保管している。職員の不適切な声掛けが見られたら管理者が指導するようにしている。接遇に関する研修やスピーチロックに関する研修も行っている。居室への入室は、ノックをしてから入るように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや、希望を聞くように、心掛け、自己決定できるように働きかけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から、食事が楽しみと 言っていており、一人ひとりの好みも、把握している。 利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。	職員が利用者の好みを聞き献立をたてている。食材をネットスーパーなどで購入して調理をしている。また利用者が食べたい物（鰻やお寿司など）は鮮魚スーパーへ発注して管理者が取りに行っている。行事に合わせてメニューを工夫して食を楽しんでいる。利用者は皮むきなどの下ごしらえといった、できる事を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしており、クリニックとも共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で口腔ケアができる方は本人にやってもらい、見守りや、介助が必要な方は職員が口腔ケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できる限り、現状を維持できるよう努め、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を記入し利用者の排泄パターンや下痢、便秘などの状態を把握している。利用者の様子や時間などをみて個々に合わせてトイレに誘導し、トイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員に、クリニックの医師から便秘に対する講習を開いてもらい、学んでいる。また、個々に応じた予防にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	施設側の都合になってしまっている。	利用者は週2回入浴している。日曜日以外は午前・午後ともお風呂の用意をしているので、日にちや時間の変更にも対応できる。お湯は一人ひとり入れ替えている。1階にリフト浴があり、身体機能が低下した方も湯船に入り暖まることができる。季節の菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、自由に居室に戻り、休めるようにしている。 夜間は安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた役割分担を行い、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで自粛している為、散歩や、外気浴のみになっている。	本年度は新型コロナ感染防止のため地域での行事や外出行事ができなかった。近くの公園に散歩に出かけたり事業所の庭で外気浴をしている。事業所内でのレクリエーションは貼り絵やパッチワーク、歌、おやつ作りなどに、工夫して取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の買い物ができるように常に配慮し、所持金が不足した場合は家族に連絡するなどの支援ができています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の携帯で自由にお話して頂いたり、手紙のやり取りも支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な物がないよう、居心地よく過ごしていただけるよう工夫をしている。	リビングには床暖房が入っている。エアコンや加湿器、空気清浄機で空調の管理をしている。換気にも配慮している。利用者と一緒に制作した貼り絵を壁に飾り季節感やひな祭りや七夕、クリスマス会などの行事を想起できるようにしている。玄関先のプランターには保育園児と一緒に植栽をした花が咲いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで一人になれたり、気の合う利用者同士で過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を尊重し、家族と相談しながら、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはエアコン、照明、ベッド、クローゼット、防災カーテンが設置されている。利用者は好みの家具やテレビ、仏壇などを持ち込んでいる。家族の写真や自分の作品を飾っている。掃除は職員と一緒にいき、手で持つ場所（ベッド柵や手すりなど）の消毒もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除、調理、洗濯物干し、たたみ、趣味活動等、自立した生活が送れるように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム幸せふくろう並木

作成日 令和 3年 10月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催・取り組みについて	どのような状況でも、書面など、工夫をして開催をする。また、報告書の作成・提出を行う。	地域包括支援センターの担当者と連携を図り、運営推進会議を開催をしていく。集まることが出来ない場合は書面開催を行い、同様に報告書作成、提出を行う。	12ヵ月
2	35	災害対策及び、定期的な避難訓練、特に夜間を想定した避難訓練について	家具、家電の転倒防止の対策が取られていること。昼夜それぞれを想定した、定期的な避難訓練が出来ていること。	危険個所を拾い上げ、家具、家電の転倒、飛び出しの対応・対策を行う。昼間に通常避難訓練と日中に夜間を想定した避難訓練を行い、会議で共有し、全職員に周知していく。	12ヵ月
3	38	ご利用者様の望む生活について	ご利用者様にとって、より快適な生活環境になるよう話し合い、環境を整える。	2ヵ月に1度、個別に、ご利用者様から、お話が聴ける機会を設け、その内容をユニット会議で話し合い、より良い環境作りをしていく。	12ヵ月
4	16	ご家族様との信頼関係の構築について	定期的に連絡が取れ、ご家族様の不安・不満の解消が出来、信頼関係が築けている。	施設から、2ヵ月に1度のお手紙、会社から季節ごとのお便りによる、生活の様子、ご希望によりテレビ電話でのご本人様と直接の会話、年賀状、また2ヵ月に1度ご家族様との電話、もしくはネットでの連絡で、安心していただける活動。定期的なご家族様へのアンケート調査による、不安・不満の解消のきっかけ作りを行うと共に、信頼関係の把握を行う。	12ヵ月